

はじめに

富士通では、当社の歴史を残すため、『富士通アーカイブズ』という活動を行っております。この活動の一環として皆様に富士通についてもっと知っていただきたいと考え、隔号で富士通についてのあれこれをご紹介させていただいております。

第三回目は、当社製品やサービスの名前の由来をご紹介します。

1. FACOM

「日本初の缶入りジュースの発売」や「マリリン・モンローの来日」があった1954年（昭和29年）10月、日本初の実用リレー式計算機「FACOM100」が完成しました。

当時の計算機の名称は、ENIAC（アメリカで開発された黎明期の電子計算機）やEDSAC（世界初の実用的なプログラム内蔵方式の真空管式電子計算機）など、「AC」で終わるものが多く、富士通信機製造の頭文字Fで始まって、ACで終わる名称が考えられました。名前の候補には、Fuji Relay Automatic Computerの頭文字をとったFURAC（フラック）もあがったそうですが、“ふらつく”と読めて、縁起でもないと言われ、最終的にFuji Automatic Computerの頭文字をとって「FACOM」と命名しました。



FACOM100(左から2人目は湯川秀樹博士)



当社沼津工場に動態展示されているFACOM128B

2. FMV

「サッカーリーグ開幕」や「横浜ランドマークタワーの開業」、「レインボーブリッジの開通」があった1993年（平成5年）10月、国際標準パソコン「FMVシリーズ」を発売しました。

FMVの「F」は、富士通（FUJITSU）の「F」です。「M」は、「マイクロ・コンピュータ（Microcomputer）」の「M」、そして、「V」は、国際標準となる「DOS/V」の「V」とVictory（勝利）の「V」をかけた「V」、それを合わせて「FMV」と命名しました。

2010年6月からは、Fujitsu PC Materializes your Vision（富士通PCは、あなたのやりたいことを実現します）ということを表しています。



初代機の一つ FMV-466D



最新型 FMV LIFEBOOK AH77/Y

3. arrows

2011年（平成23年）10月、個人向けスマートフォン・タブレットの新ブランド「ARROWS」シリーズの第一弾となるタブレット端末を発売しました。

ARROWSは、富士通が未来のスマートフォン、タブレット端末市場を常にリードし続けるスピード感、先進性、力強さなど、将来のスマートフォンやタブレット端末のあるべき姿を指し示す指標となることを意味しています。別の説としては、ウイリアム・テル（スイスの伝説的人物）が林檎（Apple）を矢（Arrow）で射る話しになぞらえて、その当時、スマートフォン市場で大きなシェアを占めていたApple社に追いつき追い越せという思いがあって「ARROWS」と命名したのではないかという説も社内ではまことしやかに囁かれてきましたが俗説のようです。なお、2015年冬モデルからは、親しみやすさ柔軟さを感じられるように「arrows」と小文字表記に変更されるとともに、安定感や優しさを感じられる字体へと変更しました。また、カラーについては清潔感を与えるすっきりとしたグレーを基調としました。



ARROWS Tab F-03G

人を想えば、進化はとまらない。

arrows

新ブランドロゴ

4. Akisai

2012年（平成24年）10月、ICTで農業経営を飛躍的に効率化させる食・農クラウド「Akisai（アキサイ、日本語通称：秋彩）」の提供を開始しました。

Akisaiは、実りの“秋”、果樹・野菜の“彩り”をイメージして命名しました。



富士通アーカイブズ展示エリア



会津若松Akisaiやさい工場

5. 富士通の歴史見学施設

富士通沼津工場には、歴史に触れる施設として、『富士通アーカイブズ』の展示エリアやコンピュータの発展に寄与した池田敏雄を紹介する『池田記念室』があります。是非、ご見学にお越しください。

富士通はこれからもみなさまとともに成長し、社会的使命を果たして参ります。ご支援、ご愛顧いただきますようよろしくお願い申し上げます。

『富士通アーカイブズ』の見学をご希望される場合は、営業までお問い合わせください。